

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

視野をひろげて緑化推進を P 2
晩秋の二風谷ツアー P 6



この六甲山の緑は90年前に人の手で植えられたものだった。黄土高原も100年後には.....

GENIに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『黄土高原に緑を!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る

etc.

あなたのご参加を待っています!

1995・11

41

緑色地球ネットワーク訪日団

視野をひろげて緑化推進を

～あたたかい歓迎を各所でうけて～



緑の地球ネットワークの事務所できつろぐ訪日団のメンバー。右から、郭健団長（太原）、葛徳軍（靈丘県）、劉彪（朔州市）、楊青明（靈丘県）、胡果（太原）、李田山（渾源県）、劉采京副団長（太原）、祁学峰秘書長（大同）。

10月25日から11月3日まで中国山西省から「緑色地球ネットワーク訪日団」を迎え、関西の各地で見学と交流の活動にとりくみました。

今回来日したのは、郭健団長はじめ9名。北京からの通訳、王黎傑さんを除くと、みなはじめの日本です。緑化について日本の経験をすこしでも多く見てもらいたいと考えて、とてもハードなスケジュールになりました。

到着早々の歓迎会には、30人をこえる人たちが集まって、歓談を楽しみました（10月25日）

一行にとって、いちばん印象にのこったのは、神戸・六甲山の緑化のようすだったようです。

以前の『緑の地球』でも紹介したように、百年前の六甲山は、ほとんど丸裸の状態、白茶けた山肌をさらしていたそうです。神戸の港が近代日本の玄関口になり、居住外国人もふえるなかで、水源涵養を目的に植林がはじまりました。

神戸市の森林植物園や森林整備事務

所で、そのころの写真や資料をみせてもらいながら、紹介をうけました。ちょうどいま黄土高原でとりくまれているように、山肌を階段状に整地し、マツなどの小さな苗木を1本1本、人の手で植えていったのです。

緑におおいつくされた六甲山を遠くからみれば、その当時の

ことは想像もできませんが、再度山のなかに入ると、ほとんど崩れてはいるものの、最初の階段整地のあとが残っています。自然の条件はちがうものの、いま植えれば、百年後の黄土高原も大きく変わっているだろうな、といて、みならずいぶんと励まされ、確信をもつことができたそうです（10月27日）

神戸では西農協も見学し、育苗や果樹・野菜栽培の状況などをみせてもらいました。農作物が商品として生産される日本と、自足もままならない黄土



神戸西農協の本野さん（右端）の案内で農家を見学

高原とで、事情は大きくちがいますが、大きな刺激になったようです（10月26日）。

奈良では唐招提寺、薬師寺、東大寺を見学しました。昨年初夏に小学校果樹園建設に大同を訪れた国際ソロプチミスト奈良4クラブの人たちが、20数名も集まって、歓迎の昼食会を設けてくださいました。話がはずんで、お寺の参観は駆け足でしたが、唐招提寺の鑑真上人の業績は、団の人たちに深い印象を残したようです（10月28日）

あいだの日曜日には大阪市内を見学しました。日本の加害責任をはっきり紹介した「ピースおおさか」の展示は、日中戦争で大きな被害を受けた山西省の人たちにとって、多少の慰めになったでしょうか。繁華街をみたあと、海遊館を訪れ、緑の地球ネットワークの事務所にもきてもらいました。現地からみた「緑の地球ネットワーク」はもっと大きな存在だったようですが、せまい事務所みんな本当に驚いていました。その夜は、積極的なバックアップをつづけてもらっている全ジャスコ労働組合関西ブロックの人たちとうちけた交流会をもちました（10月29日）

忙しい日程のなか、早朝の時間をつかって急遽、組み込んだのが、大阪市と大阪府の表敬訪問です。とても厳しい自然環境のなかで、緑化に懸命にとりくんでいるようすを紹介し、今後の協力を要請しました（30日と31日）。

お礼

緑色地球ネットワーク訪日団の全日程はおかげさまで大きな成果をあげて無事終了し、訪日団は11月3日に帰国しました。この間、受入れにあたってたくさんの方々のお世話になり、また、訪問先では心のコもった暖かい歓迎をうけました。訪日団のみならず、随行したGENスタッフ一同、いたく感激いたしました。本当にありがとうございました。そして、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。謝謝!!



河内長野の林業家を訪れてヒノキの育苗を見学

育にあたっては、肥料も必要だけど、それ以上に物理的性質、土と水と空気のバランスがとれていることが大切なことを対照実験をつうじて見せてもらい、また育苗にあたっての苦労話などを聞きました。午後は大阪府立農芸高校を訪れ、整った施設とそのなかでの教育のようすをていねいに紹介してもらいました（11月1日）。

国連環境計画（UNEP）国際環境技術センター・地球環境センターでは、地球環境問題が深刻化するなかで、途上国への環境保全技術移転を目的に生まれたセンターの目的などについて紹介してもらいました。その午後は大阪市立咲くやこの花館を、立花吉茂代表の案内で見学し、さらに黄土高原の実情を念頭におきながら、土づくり、苗づくりの方法などを念入りにみせてもらいました。団員の一部は、地元の村起こし事業の参考にするため、漬物工場を見学し、今後の協力を約束してもらいました（10月30日）

川西市では市長みずからの心のこもった歓迎をうけ、まず庁舎を見学し、さらに一庫ダム周辺の山と水、小学校、団地、再開発の商店街などを案内してもらい、一日をかけて市民生活のようすをみました。今回の団員には行政幹部も多く、参考になることが多かったようです（10月31日）

締めくくりはふたたび緑化についての見学です。大阪府立農林技術センターでも、おもに土づくりと苗づくりについての紹介をうけました。植物の生

河内長野市では早朝に市長を表敬訪問。河内長野市森林組合のご協力で、花の文化園を見学したあと、育苗をしている林業家を訪ね、そのようすをみてから、岩湧山の森林公園、杉・檜の林と間伐、枝打ちなどの作業をみせてもらいました。六甲山や川西でもそうでしたが、緑いっぱい日本の山がと



行くさきざきで交流を楽しむ。お手前はいかがでしたか？（上）大阪府立花の文化園で（下）

ても印象的である一方、大発生している松枯れや、採算にあわないために手入れされていない山が、とても気になったようです。その夜は、河内長野市日中友好協会の主催で親しみのこもった歓送会が開かれました（11月2日）。

短い期間のことですし、自然条件のあまりにも異なった黄土高原と日本ですから、帰ってすぐ役立つことはそうないでしょうが、視野を広げてもらったことが最大の収穫だったのではないのでしょうか。それは今後の長い交流と協力のなかで、しだいに生かされていくにちがいありません。一行は11月3日のCA便で無事に帰国いたしました。（高見邦雄）

（財）イオングループ 環境財団の 助成決まる

環境保全活動をおこなう民間団体や研究者等への助成をおこなっている、（財）イオングループ環境財団から、緑の地球ネットワークの黄土高原での緑化協力が助成対象として選定され、60万円の助成が決定しました。地球環境林の苗木代、建設費等の経費に使わせていただきます。

『山西省の自然』 休載のお知らせ

お気づきでしょうか。ここ数回紙面の都合で『山西省の自然』を休載させていただいております。楽しみにしていただいている読者の方には申し訳ないのですが、先日、石原先生とも相談した結果、当分休載をつづけることになりました。「できるだけ早い機会にまた山西省を訪ねて、しっかり取材して再開しましょう」と言っていましたので、再開を楽しみにお待ちください。

ボーナスカンパのお願い

冬です。なんだか急に寒くなりましたが、神戸や大同の「被災者」のことを思うと、暖冬であってほしいと祈るばかりです。

GENのふところのほうも相変わらずお寒い状態で、訪日団カンパのすぐあとで心苦しいのですが、冬のボーナスカンパをお願いします。

緑化基金、運営カンパなど通常のカンパのほかに、大同の水害で壊れた小学校再建のためのレンガ代も募ります（レンガは1個約2円）。その場合振込用紙にレンガ代とご記入ください。

緑色地球ネットワーク

～訪日団をめぐって～

多くの善意にささえられて

前川 宏（GEN世話人・元教員）

私は毎日サンデーという事もあって、訪日団の運転手を7日間させてもらいました。

GENはお金も力も無いので、初日の歓迎会でもビール一杯だけでしたし、交流会では一杯のお茶も出せませんでした。

しかし、訪問した先々では熱烈歓迎を受けました。奈良ではソロプチミスト、河内長野では日中友好協会等が食



河内長野森林組合のお世話で森林見学

べきれないほどの料理やお酒をご馳走してくださいました。見学先の漬物屋の社長さんは7時頃まで宿舎で団員達が買物から帰るのを待って、食事に誘って下さいました。

神戸西農協では本部の育苗や選果の設備だけでなく、遠くに分散している果樹園やビニールハウスを遅くまで案内してもらいました。

もう一度……

鞍田 悦子（94夏のWT参加・主婦）

交流会は、ビデオ「黄土高原に緑を！」の中国語解説つきではじまっていました。各団員の自己紹介と活動報告がつづき、懐かしい祁学峰さんの話は、荒れた大地に植林を、とはじめられたGENと中国側の協働作業が、小学校の果樹園そして地球環境林センター設立へと広がっていった経過をよく伝えていました。この広がり、南北間

を根気よくはかることが大切ですね。

交流会のメインは、立花代表の黄土高原の基礎資料による、緑化推進と方策の提言でした。温量指数や乾湿指数・植物帯の区分図を基礎にした緑化の可能性。土質の通気性と改良方法。緑化技術者の養成など、広範囲な視点で提言が出され、質疑もおこなわれました。

訪日団のメンバーもワーキングツアードで訪中した会員との久しぶりの再会を喜び握手を交わし、楽しいひとときを過ごしました。GEN会員のカンパやさまざまなサポートで実現した、大切な出会いです。訪日団がノートや心に書き留めた日本のおみやげが何であったかわかりませんが、なが～い時間を経たあとで、きれいな花を咲かせてくれるといいですね。

六甲山では、90年程も前に禿山を棚田のように整地して、植林したのですが、その跡が今でも残っています。それを我々に見せる為に、現場に行く道を前日に草刈りがしてありました。

訪問した先々で本当に心のこもった説明や案内がされたので驚きました。

GENは家内手工業的な、いかにも頼りなげな組織ですが、本当に多くの善意や好意、そして強い熱意に支えられているのだなあと感じました。

おかげで期待していた以上の成果があがったのではないかと思います。

題を、現場において顔の見える相手と取り組むことで生まれた魅力であり魔力なのでしょう。立花先生をはじめとする専門家団の経験と知識、高見事務局長のコーディネーターとしての手腕がますます発揮され、会員の持続的な協力が求められています。

立花代表のお話の後、日本側からの質問が続きました。「今年のひどかった干ばつや水害の被害について」「報道員の見た日本とは」「郵政省国際ボランティア貯金はどのように活用されているか」等、もっと時間をかけて答えていただければよかったです。

資金の用途について年配の男性が「あげたものは忘れ、もらったものは石に刻む」と人生訓を披露されみな感じいったのです。ただ、いま流行のモラルハザード（倫理の欠如）など生じませんように、最後に高見事務局長の言われたように、GENだけでなく中国側の会計報告・監査は必要かと思われ

ます。それにしても水の確保のために資金の40%が費やされるとは！あの荒涼たる光景が目には浮かびます。もう一度行きたい。



交流会には50人あまりが参加。黄土高原からの声に耳をかたむけました



前回につづいて中国に留学中の会員からの手紙を紹介します。谷口英子さんは今年の春のWTに参加したあと、8月から山西省の省都、太原にある山西大学に留学しています。白酒は週1回と追伸してくれましたが、飲みすぎないようにね。

太原だより

谷口 英子 (大学生)

(前略) 生活面では充実したものがあ、大満足。具体的にいうとまさに「地球に迷惑かけない」生活を送れているということ。風呂はせっけん(ほんまのやすーいせっけん...日本からもっていった)、酢(山西省特産、老陳醋)でたりているし、買物は、平遥で買った竹のカゴ(みんなにうらやましがられる!)や、タッパーなんかを駆使してゴミゼロ運動を一人でやっています。中国では目下“塑料袋”=ビニール袋が大はやりで、人びとも便利さの追求に流されているので、私の行動はなんと中国でもたまに奇異に見られます(ビニールいらん! というとき)が、日本のように重症ではないので、自分が望めばゴミゼロは可能! 幸せやなあ。(中略)

深尾先生じゃないけれど粥に凝りだして大変。私たちの部屋は穀物倉庫並です。粟、緑豆、紅豆、江米(うるち米)、花生、枸杞、黒米.....!! すでに数種の粥をマスターしました。私、日本に帰ったら八百屋兼おかゆ屋になるかなあ。(中略) あまりにのんきな生活を送っているところへGENの会報を見て少しショックでした。大同がそんなにひどい水害にあっていたなんて、私のとっている太原日報にはのっていない(と思う...?)。中秋節のときは中国人の友人にまねかれて大同にいったけれどそんな事はツコ知らず。情報の量が少ないというのはおそ

ろしい。(中略)

そうそう、ケツサクなのですが、「太原晩報」に私のことがのりました。記者が山西大の留学生を取材したいといってきたとき、私がたまたまいて。しっかりGENの宣伝もしたいので、一部送ります。みなさまが元気で活動をつづけられることを祈ってます。

糖葫芦(さんざしのあめがけ)のたき売りがはじまった太原より。

今年の夏、黄土高原を訪れた柴原さんが、大同の水害の知らせをうけて周囲に呼びかけ、レンガ代にと募金を寄せてくださいました。神戸(現在は京都)の吉広光正さんから、「同じ被災者同士、助け合いましょう」とレンガ代をお預かりしました。訪日団が帰国の際に持って帰りましたので、早速に役に立つことと思います。ありがとうございます。

未来に希望の橋を

柴原 順一郎 (商業)

(前略)「緑色地球ネットワーク」の皆様にはいかがお過ごしでしょうか? 日本の、大阪の秋の日和をたんのうするだけでなく、明日の黄土高原の緑化についての新たな指針が得られたのではと考えています。

いつの日にか必ず黄土高原から豊作の、そして緑があふれる便りの届くことを念じてやみません。

東北地方の宮城県というところの小さな町、小牛田町(人口21,000人)に住む一握りのメンバーたちですが、環境に国境はないとの言葉通り、それぞれの範囲で協力を続けていければと思っています。なにとぞどうぞまた頑張ってください。

未来に希望の橋をかけ、少しでも良い環境を伝えるためにともに頑張りましょう。

それではみなさん、お元気で、再見。

ワン・ワールド・フェスティバル開かれる

今年もワン・ワールド・フェスティバルが、10月16日に鶴見緑地で開かれました。例年の大坂城公園から会場が変わったので人が集まるかなと心配だったのですが、はじまってみれば大盛況。家族連れや犬の散歩のついで、といった人も多く、場所柄を感じました。

GENは黄土高原と二風谷の写真パネルを展示。たくさんの方々に見ていただきました。「去年このフェスティバルでテントをのぞいたら会報を送ってきたので今は購読しています」という方も来てくださって、「やっぱりこういう機会は大切なんだ」と実感。こうやって輪は広がっていくんですね。

小枝で押しピン 環境を考えよう

日本の人工林を守るためには枝打ち、間伐などの手入れが欠かせません。

間伐材を使ったログハウスは以前ご紹介しましたが、枝打ちでできる小枝を使って「押しピン」を作り、販売して得た収益の10%を森林の再生に取り組む団体に援助しよう、と手作りの押しピン『樹の恩恵』(1セット2個入り、250円、最低注文数50セット)の製作・販売をはじめたのが佐賀県の山田信行さん(自然空間建築研究所)。ヒノキなどの小枝を加工したかわいいピンで、『美しい緑を子供たちに』のメッセージが入ったパッケージに名入れをしてもらえます。連絡先は、GEN事務所にお問い合わせください。



またまた二風谷へ行ってきました！

晩秋の北海道とアイヌ古式舞踊を体験するツアー

武田 繁典（GEN世話人・高校教員）



ツアー参加者。うしろの尾根のあたりがチコロナイの森

この夏のワーキングツアーで団長をしてくれた勝山明彦さんの呼びかけで急に決まった9人の参加をえて、10月27日夕方から30日夜まで、3泊4日で二風谷に行ってきました。

29日におこなわれた、平取町立二風谷アイヌ文化博物館のアイヌ古式舞踊の行事に参加しました。平取アイヌ文化保存会、帯広カムイトウウポボ保存会、新冠民族文化保存会のそれぞれの古式舞踊を鑑賞したあと、地元の学校の先生や一般参加者に歌と踊りを教えてくれる実習がありました。実際にやってみると、単純そうで意外にむずかしく、体力もいるので驚きました。でも、和気あいあいとしてたいへん楽しかったです。

天候にもめぐまれ、チコロナイの山を歩いたり、アイヌ料理に使うアハという土のなかにできる豆を取ったり、ダムをみたり、沙流川できれいな石を拾ったりして、晩秋の二風谷を楽しみました。



シケレペツ農場でじゃがいもほり体験

また、予定にはなかったのですが、萱野茂さんのアイヌ語教室の日だったので参加させていただくことができ、たいへんな幸運でした。帰りに寄った白老ポロトコタンのアイヌ民族博物館では、秋野茂樹さんからていねいな説明をしていただき感謝しています。

わずか4日間で6万円の北海道ツアーでしたが、たくさんの体験をしました。貝澤耕一さん美和子さん、おいしい料理と暖かい雰囲気二風谷荘さん、それに二風谷のみなさん、ありがとうございました。

満ち足りた二風谷

伊田 明美

今回初めてチコロナイのツアーに参加させてもらって、いろいろなアプローチのしかたでアイヌにこだわり続ける人たちがいることを実感しました。

私はアイヌの踊りを教えてもらえる、というワークショップにひかれました。特に二風谷の踊りには興味をもっていて、何度となく博物館のビデオを見ていましたから。二風谷の方に教えてもらえる機会をのがしてはならない、と思ったのです。

3日間の二風谷は、落葉松の葉が太陽に照らされてキラキラしながら落ちていく様子に嘆息をつき、じゅうたんのような土の上を歩き、地面のきのこをながめ、これぞセンスオブワンダーの世界だ、と心が満ちていきました。仕事に少し疲れていた私にとって、うれしいひとときでした。

平取、帯広、新冠からそれぞれの衣装でチセに集まり、それぞれの踊りを見せてもらってこんな交流がもてることがすばらしいなあと熱くなりました。特に新冠の少し年配の方の鶴のまいの指先がとても美しく、心に残っています。



町立二風谷博物館で米田さんのお話を聞く

チコロナイ学習会 『国立民族学博物館見学と 大塚和義教授のお話』 ご案内

先月号でご案内したチコロナイ学習会の集合が決まりましたので日時等の確認とあわせてお知らせします。

- 日 時：11月26日（日）13時～
- 場 所：国立民族学博物館
- 参加費：300円（民博入場料別）
- 集 合：国立民族学博物館入口前・13時
- 申込みは11月17日に締切りました。18日以降のお問合せは円満堂修二さん（TEL/FAX. 078-592-8466、夜9時以降）まで。

実際に教えてもらって楽しかったです。チセのいろりの前で踊っていることでもさらのようにアイヌの踊りなんだと実感しました。学校へ帰って、子どもたちにおみやげと称してチャピヤとバツタを教えました。5年生の子どもたちが喜んで踊っているのです。

二風谷の踊りの練習を見せてもらったり、アイヌ語教室に参加させてもらったり、アハやイナキビ、鮭などおいしいものをおなかいっぱい食べることでアイヌの生活や知恵が感じられ、ひとつひとつがとても興味深かったです。

二風谷に来るようになって4年。夏しか来たことがなかったので秋の今回はとても印象深くてこのことと思います。

チコロナイ学習会の報告

アイヌと日本の歴史を学ぼう

第6回チコロナイ学習会を10月14日に開いた。12人が参加。学習会常連の岩下智子さんが学生時代の卒業論文をもとに「日本とロシアによるアイヌ民族侵略の歴史」を報告した。

報告によると、日本人とアイヌ人は最初、対等な商いの関係だった。それが不平等な商いになり、さらに支配と被支配の関係に変化。明治以降はアイヌの人たちの民族性を無視した日本人への同化政策にまでおよんだ。

私はアイヌと日本の歴史は抑圧と抵抗のそれで、今なおアイヌ民族を先住民族と認めず、アイヌ文化を守る必要な施策を十分に取らない日本は、明治以降の同化政策をさらに進めていると、いいと思う。

岩下さんが卒論にアイヌの歴史を選んだのは、日本に住む異民族の歴史をあまりに知らないのに気づいたからだという。私も学校でアイヌの歴史を学んだ記憶はほとんどない。しいてい

ば日本地理で「北海道にはアイヌと呼ばれる人たちが住んでいます」との文言と民族衣装のアイヌ人の写真を見たかなと思うぐらいだ。

チコロナイ部会は北海道でアイヌの人たちと協力してナショナルトラスト

運動を進めています。もちろん一番の目的は緑を守ることです。しかし、運動を進めるなかでアイヌと日本の歴史を学ぶことも必要です。正しい歴史をお互いに共有してこそ、協力の成果もあがるからです。学校では学ばないけれど日本人として知る必要のあるアイヌと日本の歴史を学ぼう。

(文責 岡田光司)

チコロナイの森を訪れて

- 自由学校「遊」二風谷ツアー報告 -

都築 仁美

爽やかな秋晴れの日、札幌の市民グループ自由学校「遊」の先住民族について学ぶコースの一環で二風谷を訪れました。参加者は17名、一泊二日の旅です。

1日目は博物館やダム建設現場に行き、森には2日目に貝澤耕一さんの案内で訪れました。チコロナイの活動やダムの裁判について話を聞き、その後森へ出発。途中、山ブドウ、コクワなどの豊かな秋の味覚を味わい、フキの葉っぱでこしらえたコップで湧き水を飲んだり、自然の恵みを楽しみながら進みました。その後、しんとした暗いカラマツ林を抜け、さらにすすむと太陽の光がさし込む雑多な木々の生い茂る場所に出ました。チコロナイの森となる場所です。所々に残る炭坑用に植林されたカラマツをいずれば伐って、ミズナラなどを植え、自然の姿に戻していきたいと、貝澤さんが生き生きとした笑顔で話してくれました。心地よい山の空気と貝澤さんの温かい人柄にふれながら、森を取り戻していくという思いをみんなで共有できた時間だったように思います。

その後、ピパ(貝殻)を使っただけの収穫等も体験し、短い時間でしたが、楽しく充実した旅でした。これからの私自身のあり方についてもいくつか考えさせられました。

二風谷ダムについて貝澤さんが話してくれた、裁判を通して国にアイヌ民族の言葉を伝えていきたいという思い。権力をもった側の傲慢さ、愚かさ、そして声を出さずにいることでそれを受

け入れている私自信の責任。ダムのもつ重苦しさのなかで、貝澤さんの存在は元気を与えてくれるものでした。そして、チコロナイのみなさんの活動もまた、元気を与えてくれると同時に、これからのあり方を考えるうえで示唆に富むものだと感じられました。

旅の締めくくりの話し合いのなかで、チコロナイの活動とつながっていったら、という話ができました。このあとも引き続きおこなわれる自由学校の先住民のコースのなかで、みんなと共に考えていきたいと思えます。どうぞよろしくお祈りします。

自由学校「遊」って？

市民の手作りの学びの場です。学ぶことを通して、人と出会い、自身を変え、社会を変えていくことを目指しています。今年で6年目。ノーマライゼーション、歴史と思想、フェミニズム、まちづくり等さまざまなテーマに取り組んできました。先住民族についても開校当時から学んできましたが、今年は先住民族の国際10年と私たち一シャモはシサムになれるのかーというテーマで、知識を得るだけでなく、参加者一人一人が自分自身のあり方を考えていくことを目指しています。11月から12月にかけて、アイヌ新法やアイヌの高校生たちのカナダの先住民族との交流、アイヌ運動史等の講座を予定しています。

連絡先：喫茶ドミネ

札幌市中央区大通西19丁目1-17

TEL/FAX 011-613-3396

萱野茂さん講演会

『アイヌ・人と自然の共存』
のお知らせ

緑の地球ネットワーク・チコロナイ部会では、ナショナルトラストによる山林買い取り、『アイヌの森』回復の運動をより発展させるために、かねてから萱野茂氏の講演会を大阪で開くことを念願していました。各方面のご協力により実現することになりました。

●日時：1996年1月20日(土)
午後3時～5時

●場所：オークホール(300人収容)
JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅前ORC内

●参加費：1000円(予定)

詳しくは次号で案内しますが、協賛の団体や個人、世話をしてくださるスタッフを広く募集しますのでご連絡ください。

連絡先：武田繁典

TEL/FAX.0727-63-4171

求む！ 中古コピー機

「あれ、ここはコピー機ないの？」
 と言われると、「買うお金ないし、リースのもととれるほど使わんし、置くスペースもないし、隣のコンビニでできるし、いらんのです」なんて答えていたのですが、なんと隣のコンビニが閉店してしまいました。となるとコピー1枚が往復20分の大仕事。お客さまが帰りぎわに、「ちょっとこれ、コピーくれへん？」なんてこともあるのに、と頭をかかえています。そこで。

コピー機あまってませんか？ B4判まで可能、かつ小型でスペースをとらないものが希望です。GEN事務所までご一報ください。

忘年会のお知らせ

講演会や報告会に来ていただいても、会員どうしでゆっくり話せる時間はなかなかありません。みなさん共通の関心をもつ人たちがばかりなんだから、きっと意気投合していただけるはず。ざっくばらんに、飲んで食べておおいに語り合いませんか。

- 日時：12月1日（金）18時30分～
- 場所：好きやねん青山（JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅、GEN事務所となり）
- 会費：3000円まで
- 申込み：GEN事務所まで
- 締切り：11月28日

ポンカンの季節です



時季おりおりの柑橘類でおなじみの高知の田中さんから、ポンカンの案内が届きました。除草剤は一切使わず、農薬散布は年2回（最終散布6月末）、有機肥料を年3回（春・夏・晩秋）ほどこして大切に育てられたポンカンですが、今年は少雨で実の太りが不足気味です。2L、3Lが少量ですので、ご了解ください。

低農薬・有機栽培 ポンカン

- 化粧箱入り（歳暮・贈答用）
 - 5kg, 2L/3L 30個前後 3,800円
 - 3kg, 2L/3L 20個前後 2,500円
 - 5kg, L 35個前後 3,300円
- 普通箱入り
 - 5kg, 2L/3L 30個前後 3,500円
 - 5kg, L 35個前後 3,000円
 - 5kg, M 40個前後 2,500円
 - 5kg, 無選別 50個前後 2,000円

- 送料：620円（関西方面）その他の地域はお問い合わせください。
- 出荷：12月5日ごろ～来年2月下旬（無選別のみ来年ははじめから）
- お申し込みは田中隆一さんまで。
 〒781-84 高知県安芸郡東洋町甲の浦
 TEL/FAX. 08872-9-2500
 売上げの一部をGENに寄付していただいていますので、ご注文の際「GENの紹介」と添えてください。



**熱帯林連続講座・Part3
『暮らしの中の熱帯林』**

～住宅材、家具材、紙、ゴミ、海を越える資源編～

第2回～家具編

- 日時：12月17日（日）13時30分～
- 場所：アピオ大阪（JR環状線・地下鉄中央線「森ノ宮」駅すぐ、TEL. 06-941-6332）
- 講師：家具職人“Zoo” 永田健一氏
- 参加費：800円
- 主催：ウータン・森と生活を考える会・下記連絡先にて確認後ご参加を。
- 申し込み不要
- お問い合わせは：西岡さん（TEL. 0722-52-0505辻村さん（TEL. 06-792-5232）まで。夜間のみ。

編集後記

訪日団が無事帰国してほっとしたのもつかの間、会報発行が目の前。毎度のことながら準備のわるい私は「な～んも考えてない」状態。「ま、訪日団の記事があるし、なんとかなるさ」とタカをくくっていたのですが、外部依頼の原稿が届かない。催促のFAXがつうじない。そのあいだに「あ、それ載せよう」「これも載せなきゃ」がたまってきて、「あの原稿届いたら載らない」状態に。かくして、やつつけ仕事の会報編集はなんとか終わったのでした。これじゃだめだとは思ってるんですが。求む、編集スタッフ！（東川）